

# 大阪

あんなとこ  
こんなとこ

## 『新世界』

関東に住む友人の「大阪と言えば通天閣」という言葉に端を発し、今回は通天閣やその周辺に注目。新世界と呼ばれる、恵美須東一丁目から三丁目あたりを散策、探訪してみました。

## 葱畑から一変

明治以前、現在の新世界から今宮周辺は、葱畑を主にした田畑が点在している荒地だったそうです。明治22年（1889）そこに今宮商業倶楽部という飲食、温泉、舞台、玉突き場などの施設や庭園から成る大規模な総合娯楽商業施設が出来ます。明治23年（1890）には「自動鉄道 今宮臥龍館」という日本初のローラー・コースターを中心とする遊技場も作られました。この商業施設は、わずか12年で廃園。第五回内国勸業博覧会用地として大阪市に売り渡されました。

## 新世界の歴史

明治36年（1903）に開催された第五回内国勸業博覧会には、5ヶ月の開催期間中に530万余人が来場。農業から学術・美術などのパビリオンや、18カ国に及ぶ諸外国の展示館、娯楽施設、最先端の技術や新商品が話題を呼び、大成功を収めました。明治42年（1909）博覧会跡地の一部が一大娯楽施設「新世界」として開発されました。北半分はパリをモデルに、南半分はニューヨークのコニーアイランドを模した都市型遊園地空間として設定され、その中央は「ルナパーク」と名付けられました。明治45年（1912）凱旋門の上にエッフェル塔を乗せた形状の「通天閣」が完成し開業。当時、東洋一の高さとなつた通天閣は、儒学者の藤原南岳が天にも通じる高い塔という意を込め命名したと言われています。大正12年（1923）ルナパークが閉園。昭和18年（1943）には通天閣下の「大橋座」から出火し、解体を余儀なくされました。昭和20年（1945）の大阪大空襲で新世界一帯は焼け野原となりましたが、戦後、新世界は復興を遂げ、当時の映画ブームに乗り、大変な賑わいを取り戻しました。

昭和31年（1956）、現在の二代目通天閣が再建され、開業50周年を迎えた平成18年（2006）に、通天閣は国の有形文化財となっています。



大阪の風情いっぱいの  
新世界と二代目通天閣

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写・転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞